

## 第 64 回 日本唾液腺学会 総会並びに学術集会

会 長：天野 修（明海大学 歯学部 解剖学分野）

副会長：長尾俊孝（東京医科大学 人体病理学分野）

2019年12月14日（土）、第64回目となる総会並びに学術集会を国際ファッションセンタービル（墨田区両国）において開催しました。年に一度の学術集会は、医学・歯学・薬学・看護学など多岐にわたる分野の専門家が一堂に会して、「唾液」「唾液腺」について学際的な討論を行い、情報を共有する貴重な機会です。今回は、従来の公募演題の発表に加え、会長が企画した特別講演2題と共催シンポジウムの報告講演が行われました。

特別講演1は、3大唾液腺の1つ 顎下腺について、公立小松大学保健医療学部臨床工学科の井関尚一教授にお話をいただきました。30年以上にわたり一貫して、マウス・ラット顎下腺の研究をされている井関教授は、「マウス・ラット顎下腺導管系の分化機構」と題して、その構造や特徴、分化・増殖機構について、特に顆粒性導管にフォーカスして様々な研究例や新しい知見も含めて解説してくださいました。



特別講演2は、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔放射線腫瘍学分野の三浦雅彦教授をお招きし、「唾液腺癌・口腔癌に対する放射線治療の基礎と臨床」というテーマでお話をいただきました。放射線腫瘍学、放射線生物学がご専門の三浦教授は、現在取り組んでおられる小線源治療の有用性と展望、細胞周期動態を可視化して放射線が腫瘍細胞に及ぼす影響を解析する研究、放射線増感剤の開発研究等についてご説明くださいました。

さて、「広く唾液、唾液腺に関する諸研究の国内および国際的な知識の交流、啓発すること」（会則第2条）を目的とする本学会は、2019年10月14日に、第61回歯科基礎医学会 学術大会において、共催シンポジウム『唾液腺の基礎研究から再生医療へ』を開催しました。

歯科基礎医学会・日本唾液腺学会共催シンポジウム『唾液腺の基礎研究から再生医療へ』

【日時】10月14日（月・祝）13:00～14:40

【会場】東京歯科大学

オーガナイザー：天野 修（明海大学歯学部形態機能成育学講座解剖学分野）

吉垣純子（日本大学松戸歯学部生理学講座）

シンポジスト

・天野 修（明海大学歯学部形態機能成育学講座解剖学分野）

「唾液腺研究に果たす歯科基礎医学会と日本唾液腺学会の役割」

・谷村明彦（北海道医療大学歯学部薬理学分野）

「In vivo 機能解析と遺伝子情報に基づく唾液腺機能亢進機構の研究と口腔乾燥症治療への提案」

・阪井丘芳（大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能治療学教室）

「唾液腺形成における mTOR シグナル伝達経路の解析」

・田中準一（昭和大学歯学部口腔病態診断学講座口腔病理学部門）

「マウス ES 細胞由来唾液腺オルガノイドを用いた唾液腺再生」

学術集会ではその総括として、吉垣純子教授より4題の講演要旨の紹介があり、台風19号の影響が残る中で開催されたにも関わらず大変盛況であったことが報告されました。唾液腺の機能再生に対する期待感、ひいては、唾液腺研究に対する注目度の高さがうかがわれ、本学会の活動を知っていただく好機にもなったとのことでした。



公募の演題は「基礎的研究」8題、「臨床的研究および病理診断学的研究」6題、「症例検討」2題の発表があり、活発な討論が行われました。

筆頭演者が45歳以下の一般演題を対象として選考される学会奨励賞は、大阪大学歯学部附属病院の酒井学先生に授与されました。

<基礎的研究>

「唾液腺発達における mTOR シグナル経路の役割」

○酒井 学<sup>1),2)</sup>・井階一樹<sup>2)</sup>・皆木 瞳<sup>2)</sup>・阪井丘芳<sup>2)</sup>

(1) 大阪大学歯学部附属病院検査部, 2) 同歯学系研究科顎口腔機能治療学教室)



2020年に開催する第65回学術集会は、東京医科大学人体病理講座の長尾俊孝教授が会長を務めます。詳細は後日、学会HP等を通じてお知らせしますので、奮ってご参加ください。